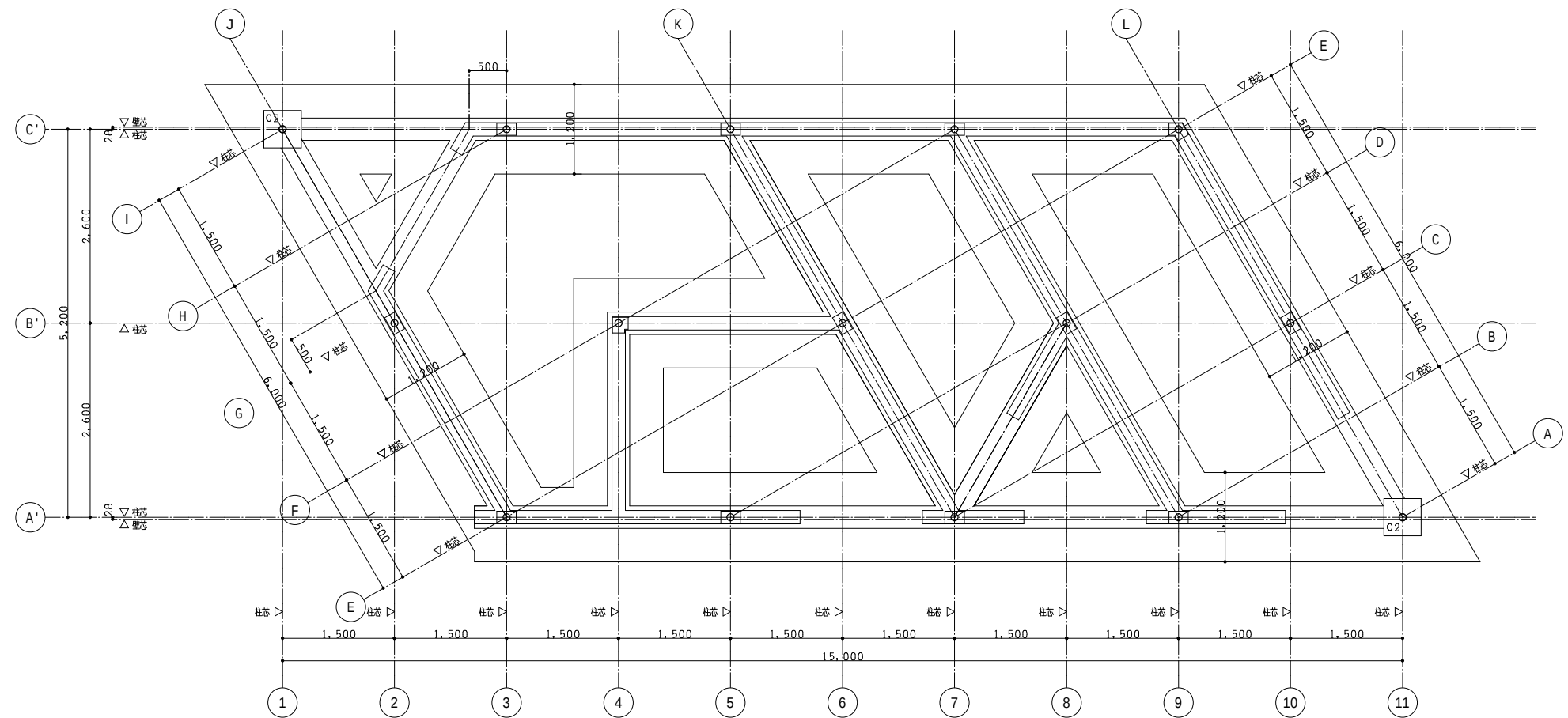
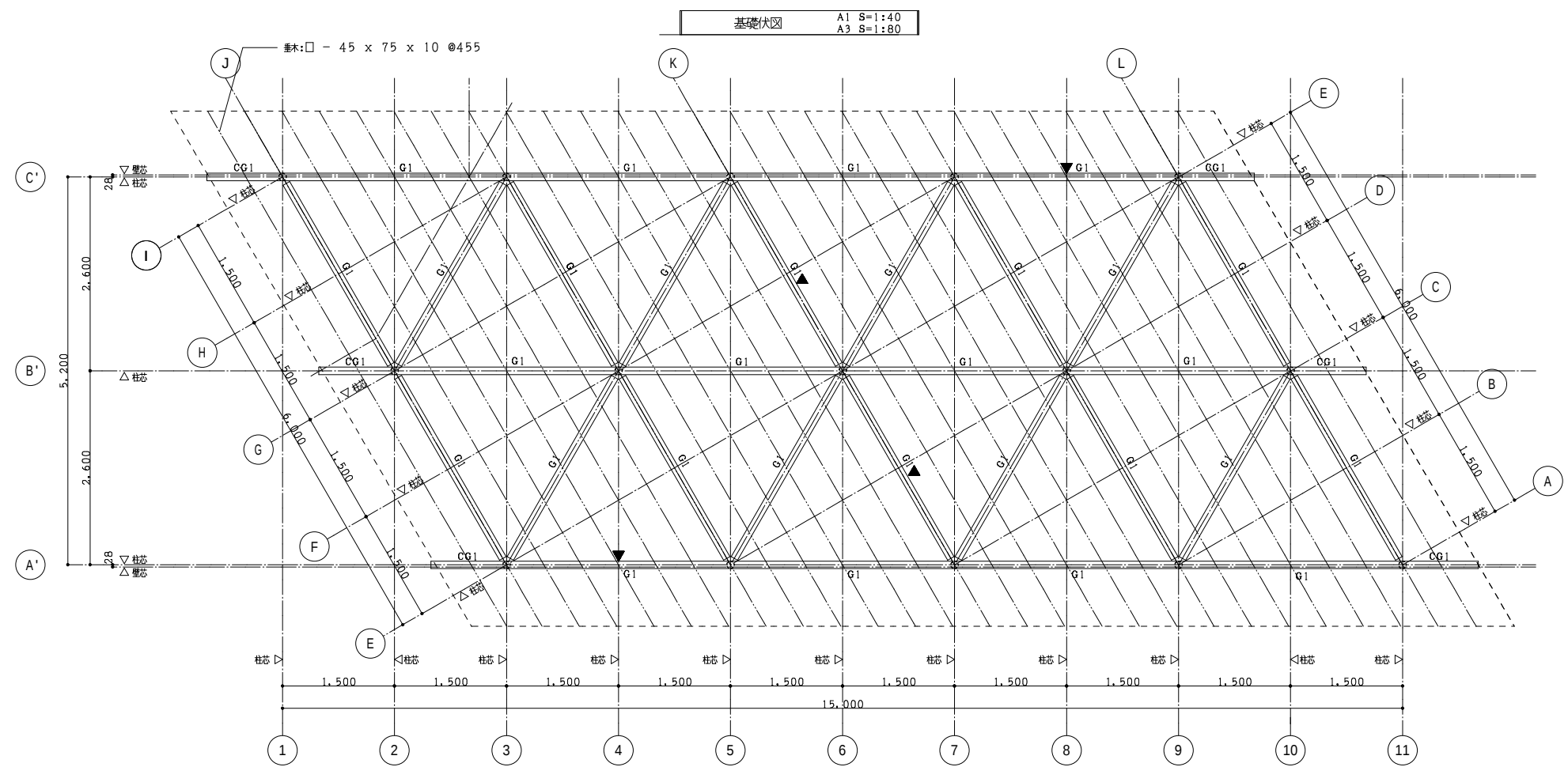




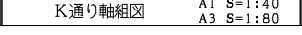
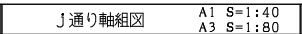
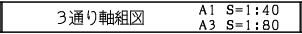
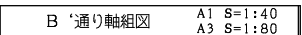
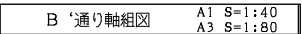
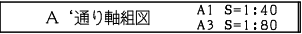
(特記事項)

- 1) 特記なき限り、スラブはDS18とする。
- 2) 特記なき限り、布基礎はF1とする。
- 3) 特記なき限り、地中梁はFG1とする。
- 4) 特記なき限り、柱はC1とする。
- 5) 地盤工事において、全体工程に影響を及ぼさないように重機格・台数・施工方法を決定すること。
- 6) 1F床レベルは意匠図による。



(特記事項)

- 1) 梁天端は軸組図による。
- 2) ▼ は鉛直ブレースHV1を示す
- 3) 部材位置・屋根勾配については施工図により、打ち合わせの上最終決定とする。



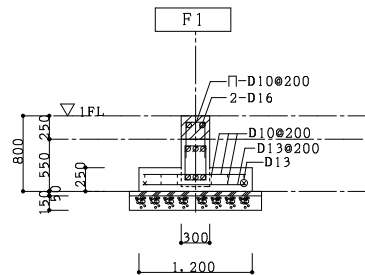
地中梁リスト	A1 S=1:40 A3 S=1:80
--------	------------------------

(特記事項)

- 1) 特記なき限り 幅止め筋は D10-@1000。
2) 地中梁の上増打については土間がある場合のみとする。
また、地中梁の上増打は土間天端までとする。

符 号	FG 1
位 置	全断面
マニフェ 断 面	
B × D	300 × 500
主 筋	上端筋 3-D16 下端筋 3-D16
スターラップ	□-D10-@200
腹 筋	2-D10

基礎リスト	A1 S=1:40
	A3 S=1:80

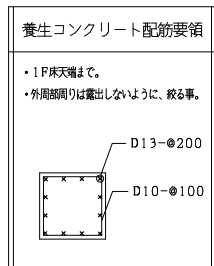


台柱リスト	A1 S=1:40 A3 S=1:80
-------	------------------------

《特記事項》

- 1) 柱頭4すみは、フック付き。

符 号	C 2
B×D	500 x 500
断 面	
主 筋	12-D16
HOOP	□-D10-@100

スラブリスト

符 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
			端 部	中 央	
DS18 (1階床)	180	上 端 筋	D10・D13－φ200	D10・D13－φ200	ダブルモチアミ
		下 端 筋	D10－φ200	D10－φ200	

鉄骨リスト (柱脚リスト)	A1 S=1:40
	A3 S=1:80

(特記事項)

- 1) 特記なき限り、ベースプレートについては、SN490Cとする。

符 号	C 1	C 2	ベースプレート施工要領
断 面			
B. E.	16×160×250	16×260×260	
A. BOLT	4-M16 L=400 (定着長さ) 〈ダブルナット、 定着板 (規格品75×75)〉 SNR400B (ABR400)	2-M16 L=400 (定着長さ) 〈ダブルナット、 定着板 (規格品75×75)〉 SNR400B (ABR400)	

鉄骨部材リスト(柱リスト)	A1 S=1:40
	A3 S=1:80

(特記事項)

- 1) 外部に露出する柱は溶融三鉛メッキとする。

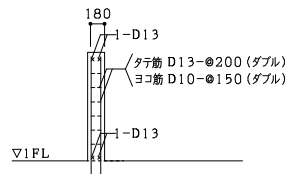
符 号	階 数	部 材	備 考
C 1	1 F	$\phi - 101.6 \times 3.2$ (STK400)	
C 2	1 F	$\phi - 114.3 \times 3.2$ (STK400)	

鉄骨部材リスト

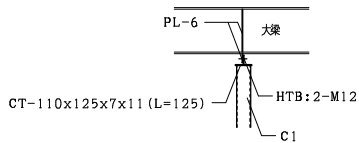
(特記事項)

- 1) 材質はSS400とする。
- 2) 外部に露出する部は溶融亜鉛メッキとする。
- 3) 継手位置は軸相図参照。
- 4) 継手位置については運転等を考慮の上、現場にて打ち合わせの上最終決定とする。

符 号	部 材	備 考
G1・CG1	H - 100 x 100 x 6 x 8	G, P-6 HTB:2-M16
HV1	1-M16 (ターンバックル付き)	G, P-9 HTB:1-M16
垂木	□ - 45 x 75 x 10 @455	

腰壁・手すり壁配筋要領

C 1 柱頭詳細



埋め戻し転厚要領	TSD-F01	梁幅増し打ち要領	TSD-RC-G01	増し打ち部配筋要領	TSD-RC01	土間コンクリート配筋図	土間・犬走り端部配筋要領
※1 増え戻しはシラス又は、良質土を使用の事 転厚については各層2回以上の水締め転厚とする。 ※2 基礎フーチング下の増え戻し(※2部分)がある場合については 地盤改良工事(高圧セメント混入等)に準ずる。 設計地耐力以上確保すること ※1 印寸法は、基礎リスト参照		※1 印寸法は、基礎リスト参照		注) 増し打ち部の鉄筋スパーサーは 増し打ちを考慮したものを使用する事	注) 土間下地盤工事については、ローラー転圧等により締め固めを十分に行うこととする。 注) 土間下地盤工事については、ローラー転圧等により締め固めを十分に行うこととする。	注) 土間下地盤工事については、ローラー転圧等により締め固めを十分に行うこととする。	周辺地盤より※1寸法を確保に確保のこと。 深さについては角度、確認の上最終決定とする。
犬走り配筋要領	TSD-F03	梁増打スリーブ補強要領	腰壁・手すり壁配筋要領		梁増打補強要領		TSD-RC-G09
※1 印寸法は、基礎リスト参照	※補強については、既製品でも可とする。 ※原則として増打部も主要部と同様に補強を行うこととし、 監督員の指示により下図のようにできるものとする。 ※スリーブは主筋、あばら筋とのあきも確保すること。	※1 印寸法は、基礎リスト参照	誘発目地要領 ※1 印寸法は、基礎リスト参照	※1 印寸法は、基礎リスト参照	梁上打増 70<H≤200 梁下打増 70<H≤200 ※1 印寸法は、基礎リスト参照	※軸方向補強筋の定着長さはL2とする。 H>200の場合 ※1 印寸法は、基礎リスト参照	
胴縁取付要領図(ヨコ)	TSD-S22						
※1 印寸法は、基礎リスト参照							